社会科学習指導案

実施日時：平成 23 年　1 月 21 日(金)　第 3 校時
指導学級：文教大学付属小学校　第 5 年 1 組　30 名
場所：文教大学付属小学校　第 5 年 1 組教室
授業者：家庭専修 3 年　久保千栄子

1.単元名「わたしたちの生活を支える宅配便」

2.単元目標
自分たちが普段利用している宅配便が、消費者のニーズや願いに応えるために行っている工夫や、より速くより確実に宅配するための努力を知り、宅配便の発達が私たちの生活を豊かにしていることを理解する。

3.評価について
・評価規準

ア.社会事象への関心･意欲・態度	イ.社会的な思考・判断	ウ.観察・資料活用の技能・表現	エ.社会事象についての知識・理解
●自分たちの生活と、宅配便(運輸業)の結びつきに関心をもち、意欲的に取り組む。	●宅配の仕事についている人々が(ドライバーなど)が、消費者のニーズや願いに応えるための工夫や努力について考え、理解することができる。	●インターネットや資料集、グラフ、図書館などを利用し、それらの資料を正確に読み取り、宅配の仕事について調べたことを自分の言葉で整理し、まとめることができる。	●宅配便が自分たちの生活と結びついていることや自分たちの生活を豊かにしていることがわかる。 ●宅配の仕事に携わる人々が消費者のニーズや願いに応えるために様々な工夫･努力をしていることがわかる。

・評価基準
ア.社会事象への関心・意欲・態度
A：自ら宅配便に関する資料を集めたり、実際に宅配便 1 人で利用してみる。
B:宅配便を親または友人と利用してみる。
C:宅配便を利用しない。

イ.社会的な思考・判断
A:工夫・努力について 5 つ以上あげる。
B:工夫・努力について 3 つあげる。

C:工夫・努力について 1 つあげる。

ウ.観察・資料活用の技能・表現

A:調べたことに対して、感じた自分の考えや疑問について、さらに調べられている。

B:調べたことに対して、自分の考えや疑問点が書かれている。

C:調べたことがまとめられている。

エ.社会事象についての知識・理解

A:学習事項がノートにしっかりまとめられている。

B:学習事項がノートに半分ほどまとめられている。

C:学習事項が、ノートにあまりまとめられていない。

4.単元について

(1)単元観

本単元は、学習指導要領第 5 学年の内容(2)の「ウ.食料生産に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸などの働き」、(3)の「ウ.工業生産に従事している人々の工夫や努力、工業生産を支える貿易や運輸などの働き」、(4)に基づいて設定したものである。この単元での学習内容は、生産地と消費地を結ぶ運輸について、児童の生活に身近である宅配便を用いて、宅配便の工夫や努力を知り、宅配便の発達が私たちの生活を豊かにしていることを理解することである。

本単元では、宅配便として学んでいくが、その中で宅配便と宅急便の違い(宅急便はヤマト運輸のブランド名であり一般的には宅配便であること)を理解させるようにもしたい。また、この単元では、たくさんある宅配便の中でも、ヤマト運輸に絞って授業を展開していこうと考える。

本学校のある市内、学区内には、宅配便(ヤマト運輸)の営業所は、市内に 47 ヶ所、1 学区に 4～5 ヶ所程ある。また、取扱店のコンビニは、1 学区に 3 ヶ所あり、コンビニ以外の個人で商店を経営しているところでの取り扱いは、1 学区に 7～10 ヶ所程ある。単元の導入の際には、市内もしくは学区内の取扱店を記した地図などを活用したり、展開では学区内の営業所へ行ってみたりなどしていき、宅配便を身近なものにして学習していく。

(2)指導観

指導については、児童の身近な宅配便を例にとり、働く人々の工夫や努力が見えやすいよう、資料やグラフを活用していく。また、工夫や努力については、ドライバーや宅配車、配達方法など様々な視点からの工夫・努力を提示し、宅配便が消費者のニーズや願いに応えていることを児童に気付かせていくようにする。そのためには、教師自身が単元についての知識を持って授業を行うことが大切である。そして、児童が興味・関心の持てるような教材やインターネット、資料集を活用する。児童自身もインターネットや資料を活用し、調べていく中で、自分の考えや課題を持てるような授業にしたい。資料の活用については、3・4 年生から学んできている。ただ、ここでは、様々な資料を活用する方法を身につけられるよう、教師が調べる機会をたくさん与えられるよう援助する。他にも、インタビュー、もしくは、ゲストティーチャ―を招いての授業などを取り入れ、児童が課題意識を持つことのできる授業展開をし

ていく。

(3)児童の実態

本学級の児童は、3・4 年生で交通については学んできてはいるが、運輸業については本単元を通して初めて学んでいく。本単元で学んでいく宅配便については、児童の意識として漠然と「宅配便＝荷物を運ぶ仕事」と認識しているだけで、実際にどういったしくみで、どういう仕事をし、どんな工夫・努力をしているのか、などの細かな内容は知らない。また、宅配便自体、児童にとってあまりにも身近なものであり、たくさんの興味・関心を持っているわけでもない。そのような状態で、宅配便の工夫・努力を見つけ出していくことは難しい。そこで、宅配便に関する資料を提示し、児童に予想や疑問を持たせ、そこから、インターネットや本を活用し、宅配便についての工夫・努力などについて興味・関心を持って自主的に学んでいく態度を育てていきたい。

5.指導の関連

H20 学習指導要領	人文・社会条件	
	交通	歴史・政治
第 3 学年	鉄道・道路 船・飛行機	
第 4 学年		伝統
第 5 学年		

運輸業については、自然条件の地形の分野にある、農業・水産業・工業と関連させて学んでいく。

6.指導計画(全 9 時間扱い)

次	時数	主な学習活動	評価規準　　〇教師の支援・留意点
1 次	①	「宅配便について考えよう」 ・宅配便の営業所や取扱店の部分を塗った地域の地図を提示し、その場所の意味、数の多さ、どんなところにあるのかなど、気付いたこと、不思議に感じたことを話し合う。 ・実際に宅配便を利用してみる。	ア.自分たちの生活と宅配便の結びつきに関心をもち、進んで気付いたことを発表することができる。また、話し合いに積極的に参加しようとしている。 〇地域の地図は児童の手元にもいくように、ワークシートを作成し、そこにのせる。 〇宅配便に関する子どもの経験を話し合いの中に入れる。 〇宅配便を利用する際は、次時の授業で輸送方法や輸送経路を考えさせるため、なるべく離れた場所から取り寄せる。

	②本時	「宅配便のひみつを知ろう！①」 ・届いた宅配便を利用し、調べたいこと・疑問に感じたことを発表する。 例.)どうやって速く運んでいるのか。 決められた時間に運ぶにはどうしているのか。 どんなものがたくさん運ばれているのか。 預けた荷物のゆくえ。 ・挙げられた調べたいことを、いくつか絞って資料やグラフ、パンフレット、写真などを用いて探り、宅配便の工夫・努力について考える。	イ.宅配の仕事に携わっている人々は、消費者のニーズや願いに応えるための工夫や努力していることについて、考えることができる。 ウ.資料を活用したり、正確に読み取ることができる。また、資料をもとに予想を立て、思考・推測し、自分の言葉で発表することができる。 〇参考資料の用意。
	③	「宅配便のひみつを知ろう！②」 ・宅配での小荷物の取り扱い量の変化が記されたグラフを提示し、どうして宅配便が増えたのかなど疑問点を考え、話し合う。	イ.宅配便の工夫・努力を考えることができる。 ウ.資料を活用したり、正確に読み取ることができる。また、資料をもとに予想を立て、思考・推測し、自分の言葉で発表することができる。 〇参考資料の用意。
	④	「宅配会社への見学・インタビューの準備をする」 ・班になって、見学した際に聞きたいこと、見ておきたいことを話し合い、ノートにまとめておく。	ア.興味・関心を持って、話し合いに参加し、見学した際に何を聞きたいのか班で考え、きちんとノートにまとめることができる。 〇見学目的を明確にすること。見学の際に必要なものや見学に行った時の挨拶や礼儀作法・交通ルールの確認。 〇他の教員、もしくは保護者に協力を依頼し、引率を手伝ってもらう。
2 次	⑤⑥	「宅配会社へ見学しに行こう！」 ・前時で制作したノートをもとに、宅配会社で働く人々にインタビューをする。 例.)ドライバーさんの話。 サービスセンターで働く人の話。 ・宅配便の工夫・努力について観察する。 例.)車の中にどんな工夫があるか。 どのように仕分けされているか。	ア.積極的に、関心を持ってインタビューや観察をすることができる。 ウ.インタビューするなどの体験的活動を通して、宅配便の様子を観察することができる。 ウ.インタビューで、必要な情報をノートにメモしておくことができる。 エ.宅配便の仕事に携わっている人々の工夫や努力に気付き、理解することができる。

	⑦	「見学した内容をまとめる」 ・宅配会社で見学やインタビューをしたこと、宅配便の工夫・努力、気付いたことなどをもとに、宅配新聞を作る。	ウ.見学して調べた内容を自分なりに整理し、自分の言葉で表現しまとめることができる。
	⑧	「見学内容の発表会」 ・自分が作成した宅配新聞をクラスの人たちに発表する。	ア.発表に意欲的に参加しようとしている。 ウ.自分の言葉で表現し発表することができる。 エ.宅配便で働く人々の工夫・努力について理解することができている。 〇できるだけ多く発表できる場を設ける。
3 次	⑨	「宅配便と私たちの生活」 ・この単元を通して、宅配便が自分たちの生活に結びついていることや生活を支えていること、そのために様々な工夫・努力をしていることを理解し、今後、自分たちの生活でどう利用していくか考える。 ・国外の輸送方法として貿易についても目を向ける。	イ.宅配便の工夫・努力を知った上で、今後、自分の生活と宅配便がどう関わっていくか考えることができる。 エ.宅配便が消費者のニーズや願いに応えるために、様々な工夫・努力をしていることを理解し、宅配便の発達が私たちの生活を豊かにしていることを理解することができる。

7.本時の学習(2/9 時間)

(1)本時の目標

・届けられた荷物や、資料を活用し、宅配便が速く運ぶための工夫・努力について考え、理解する。

(2)評価について

・宅配の仕事に携わっている人々が、消費者のために様々な工夫・努力をしていることについて考えることができる。(イ.社会的な思考・判断)

A:工夫・努力について 5 つ以上あげる。

B:工夫・努力について 3 つあげる。

C:工夫・努力について 1 つあげる。

・資料をもとに、宅配便の工夫・努力について予想し、考えることができる。

(ウ.観察・資料活用の技能・表現)

A:資料から予想したことがノートにまとめられており、さらに自分の考えや疑問点が書かれている。

B:資料から予想したことがノートにまとめられている。

C:資料から予想したことがノートにまとめられていない。

(3)用意するもの

届いた荷物、宅配便のパンフレット、宅配トラックや宅配している人・ロゴの写真などの資料。

(4)展開

	学習内容　□予想される児童の反応	●評価　○指導上の留意点・支援
導入 5 分	●前時のふりかえり ・宅配便の営業所や取扱店がどういうところにあるのか。その数はどうだったか。	●前回の授業内容を理解しているか。きちんとノートにまとめられているか。 ●宅配便は自分たちの身近な場所にあることが理解できている。
展開 30 分	●届いてきた荷物を見て話し合う。 □届くの速いな。 □どうやって運んできたのかな。 □箱に貼ってある紙は何だろう。色々書いてある！ □決められた時間に運ぶにはどうしているの。 □どんなものがたくさん運ばれているのかな。 □預けた荷物はどこにいくのだろう。	●積極的に発表しているか(評価ア) ○たくさんの意見ができるようにし、なるべくたくさんの児童に発言させる。
	発問：荷物がこんなに速く届くひみつはなんだと思いますか？	
	●輸送車の写真やパンフレット、荷物の動きを示した資料などをもとに、どんなことが読み取れるか考える。 □このトラック見たことある！トラックで運んでるのかな。 □いろんなところに荷物が移動している。 □箱の紙が速く運ぶために関係しているののかな。 ・トラックが何十時間もかけて荷物を運んでいることに気付く。 ・他の輸送機関も使って荷物を運んでいることに気付く。	●資料を活用し、正確に読み取り、予想・推測し、発表することができているか。(評価ウ) ●積極的に発表しているか(評価ア) ○一人で考えるのが難しければグループになって考えさせる。 ○届けている人の気持ちと届けてもらう人の気持ちも考えさせられるようにする。

	発問：箱についている紙(伝票)はなぜついていると思いますか？ ●伝票を拡大したものを黒板に提示し、伝票の役割について考える。 □何日の何時に届けるのかが書かれている。 □何を送るかも書いているね。 □数字がたくさん書いてあるよ。 ・速く運ぶために、伝票が役立っていることに気付く。	●資料を活用し、正確に読み取り、予想・推測し、発表することができているか。(評価ウ)
まとめ 10 分	●宅配便の工夫・努力について考える。 ・宅配便の工夫・努力は、私たち消費者に速く届けるためのものであることに気付く。 ●次回の活動の説明。	●宅配の仕事に携わる人々の工夫・努力について理解することができているか。(評価イ) ○次回の活動を知らせる。

(5)板書計画

宅配便がこんなに速く届くひみつは何だろう？

児童の意見
・
・
・
} 工夫・努力

資料

箱についている紙はなぜついているの？

児童の意見
・
・
・
} 工夫・努力

伝票を拡大したもの